

アンケート A. Q12 の記述式回答

A. 保全や持続的利用の取り組みについて

Q12. 上記の質問「Q12」に対する御回答につき、そう判断された理由、考えられる要因、改善するための課題、困っていること等を書いて下さい。

※Q11 の活動がうまくいっているか、また Q4 の活動場所を参考として付け加えて一覧を表示した。
 (○はうまくいっている、△はあまりうまくいっていない、?はどちらともいえない、-は記述なし)

整理番号	Q11			Q12	Q4より(参考)
	活動はうまくいっていますか?			Q11 に対する回答につき、そう判断された理由、考えられる要因、改善するための課題、困っていることを書いてください。	活動場所【県等のみ記述】
	自然環境	社会面	運営面	理由記述	活動場所
1	○	○	○	専門家のアドバイス	沖縄県【沖縄島】
2	○	○	○	自然環境に対する効果:海城公園内の衰退していたサンゴの再生に成功 社会的面:地域活性化とまでは行かないけれど地元小学生対象の環境学習等 運営面:09~13年までは藻場対策事業の資金があるが、それ以降が不安	高知県
3	?	○	?	調査→地域での保全活動への寄与としては成功したと考えられるが、一時的なものであり、継続した事業と見られていない。地域での保全活動→調査に出る評価が必要。(現在、調査を計画中)	沖縄県【西表島】
4	-	-	-		
5	-	-	-		
6	△	?	?	現段階ではそんなに積極的に活動を行っていないから。	沖縄県【沖縄島】
7	?	○	○	サンゴの再生に継続的に取り組んでいるが、サンゴの生存率はあまり向上していない。しかしながら、一般市民及びダイバーでの理解促進には役立っている。	高知県
8	△	△	△	自然再生事業を継続するための事業費が続かなくなっており、必要な事業(調査、啓発、環境保全)を続けられなくなってきた。そのため、地元の関係者の関心がなくなりつつある。	徳島県
9	○	○	○	サンゴを良く知らない海なし県の一般市民が、サンゴに興味を持つきっかけとなり、普段の生活の仕方によって、サンゴを守ることができることを理解していただいていると感じたから。	埼玉県
10	?	○	○	目標を何に設定しているかにより評価が変わります。現在は、当会のリソースを最大限に活用して、地域でのコミュニティベースの保全活動の立ち上げを支援していますが、いずれは自立した取り組みを求めています。自立化の部分で、現状では大きな成果があがっているとは言えないところ(取り組み途中)です。	沖縄県【石垣島】
11	-	-	-		

参考資料 1

12	△	△	△	効果:現在の駆除日数やダイバー数では食害における被害は食い止められていない状況である。社会的:関係者(漁業・観光関係・地元住民)の理解や協力的活動が必要であると感じられる。運営面:危険が伴う作業のため、ダイバー賃金が割高になり、また貸船料等の資金が必要であるため中々事業拡大が難しい。可能な限り補助金等の有効活用に努めたい。	愛媛県
13	○	○	△	会員の減少と共に、メンバーの固定化。	高知県
14	?	○	?	モニタリング結果を国立環境研究所のホームページに「サンゴ礁の水中画像アーカイブ」として公開した(http://www.nies.go.jp/aquaterra/coral/index.htm)。その結果、問い合わせをいくつかいただき、要請に応じて提供した水中画像は、例えば「モニタリングサイト1000」のパンフレットに使われている。また、研究結果を単行本「海の働きと海洋汚染」(裳華房ポピュラーサイエンスシリーズ、1997年)に記載したところ、サンゴ礁の役割について小学生生徒などから問い合わせをいただいた。	沖縄県【黒島】
15	?	?	?	ダイビングを伴う活動のため、運営資金が高額となる。モニタリング調査は最少でも10年単位の計画を立てているが、現状は単年度の民間助成金に頼っている。継続的な安定資金調達が課題である。調査結果の効果的な発表を検討しているものの、公表による違法採取の誘発が懸念されるため、行政・地域との協働による、違法採取対策の検討が課題。	千葉県・静岡県
16	-	-	-		
17	○	?	○	モニタリング調査のみで、社会的な取り組みは展開していない。	千葉県・静岡県
18	-	-	-		
19	○	○	○	西表島の森林生態系等に係るモニタリング調査、森林環境教育等の事業で、地域行政機関等と連携しながら実施しており順調に展開している。	沖縄県【西表島】
20	△	○	△	環境行政の依託事業は地域団体が受けるべき内容のものも少なくない。しかし、競争入札で無理に落札しようとすると負担が大きく、財政基盤の十分でない地方のNPO法人では組織崩壊に直結するため、安易に事業を受託できないのが現状である。	沖縄県【西表島】
21	?	△	△	最盛期より、極端に個体数が減少しており、現存する個体を保護している状況である。近隣工事による影響調査の名目で事業費を確保しているため、平成24年度に事業が完了するものであり、それ以降の予定は未定である。	静岡県
22	?	○	○	目標を何に設定しているかにより評価が変わります。現在は、当会のリソースを最大限に活用して、地域でのコミュニティベースの保全活動の立ち上げを支援していますが、いずれは自立した取り組みを求めています。自立化の部分で、現状では大きな成果があがっているとは言えないところ(取り組み途中)です。	沖縄県【西表島】
23	-	-	-		
24	○	○	?	基礎的な研究分野が対象なので、自然環境に対する直接的な効果は判断しづらい。ただ、この10年間の積み重ねでサンゴ個体群のおおまかなことは理解できてきた。与論島で行っているプロジェクトでは、地元の住民の方に少しずつ造礁サンゴの大切さ、サンゴ礁再生の重要性を認識して頂けるようになってきたと感じます。	沖縄県・熊本県・長崎県
25	?	?	?	昭和48年から継続してオニヒトデの駆除を実施していることから、一定の効果はあるとは思われるが、大発生時には絶滅寸前に近い状態までサンゴが食い尽くされてしまうため。 またモニタリングについても、平成17年から実施しているが、モニタリングの成果をどのような形で地元に戻していくべきかが、今後の課題ではないかと考えている。	鹿児島県【奄美諸島】
26	-	-	-		
27	-	-	-		

参考資料 1

28	○	○	?	ダイビングクラブの活動として、クラブ年間行事の一つとして行っているため。ゆるい活動(気軽に参加できる活動・楽しみながら目に付いたゴミを拾うなど…)地元観光課など協力関係を大切にしている。	愛媛県
29	?	△	?	サンゴを中心として、シーカヤック、ダイビング、シュノーケリングの導入等、地域活性化の一助となっていると考えられるが、人が来れば来るほど、漁船の運航の妨げになるなどの地元からの苦情も聞かれるようになった。	愛媛県
30	-	-	-		
31	-	-	-		
32	-	-	-		
33	-	-	-		
34	-	-	-		
35	-	-	-		
36	?	?	※	教育・普及に関する取り組みでは効果を一概に言いにくい「どちらともいえない」にチェックしました。 ※特に問題はない	沖縄県【石垣島】
37	△	?	○		高知県
38	-	-	-		
39	-	-	-		
40	-	-	-		
41	△	?	?	ビーチを離れると急に水深が深くなり、オニヒトデの除去が困難。	沖縄県【粟国島】
42	○	△	△	環境保全是うまくいっているが、地元の活性化や理解促進については思うように進んでいない。また人材面でも町外業者に委託しているため、(町内に有識者や業者いないため)育成という面で課題を残している。	鹿児島県
43	○	△	△	リーフチェックに興味を持つダイバーが少なく、啓発活動につながりにくい。資金がなく来年度開催できるか毎年心配している。	高知県
44	○	○	○	恩納村漁業協同組合の努力の積み重ねと、漁民や住民、役場、商工会などの地域の理解が広がりつつある。生活排水、赤土流出等改善するための課題はありますが、少しずつ減少していると思われる。	沖縄県【沖縄島】
45	-	-	-		
46	?	?	△	設立から環境省主催のPV 養成講習会が開催されていたが、01'高知西南部豪雨被害後は開催が少なくなり会員の減少・固定化により活動がマンネリ化してきた。また、財政的な支援も少なく現在は会員有志がサンゴ移植やその後のモニタリング及び駆除活動を継続している。なお、年1回開催しているイベントの「コーラル&フィッシュ」で存在感をアピールしている状況である。	高知県
47	-	-	-		
48	-	-	-		
49	△	?	○	サンゴ礁再生事業を行っていますが、着床具が台風で流出したり、幼生の着生がなかなかうまくいっていない。参考になるような情報がほしい。	鹿児島県【奄美諸島】
50	△	?	○		鹿児島県【奄美諸島】
51	○	○	?	研究テーマをもつ学生・院生が確保されており、地元漁協との関係も順調である。	高知県

参考資料 1

52	?	○	※	活動成果が目に見えない。活動の様子が全国発信されているために、地元民にも少しずつ理解度が高くなった。離島での作業、危険な作業なので資金が必要となる。 ※資金不足	徳島県
53	-	-	-		
54	-	-	-		
55	○	○	○	オニヒトデの食害防止(駆除作業)は、漁業関係者の協力も必要なことから補助事業の導入等が望ましいと考えます。事業導入へ向けた補助事業メニューの創設を望みます。	沖縄県【伊是名島】
56	-	-	-		鹿児島県
57	○	○	○		鹿児島県
58	-	-	-		
59	○	○	△	運営資金乏しい。行政の協力が無い。	和歌山県
60	-	-	-		
61	○	△	△		高知県【沖の島】
62	-	-	-		
63	-	-	-		
64	?	?	△	駆除の方法について、もっと簡単な方法が必要。	熊本県
65	-	-	-		
66	-	-	-		
67	○	○	?		神奈川県、瀬戸内海、海外(グアム)
68	-	-	-		
69	-	-	-		
70	-	-	-		
71	-	-	-		
72	-	-	-		
73	-	-	-		
74	○	○	?	資金を調達するために毎年様々な助成金に応募するが、単年度事業のため応募書類作成、報告書作成にかかる労力が大きく、継続して活動を行うためには財源が不安定である。また助成金は実質の活動主体であるNPO職員の人件費に当てることができないものがほとんどで、そういった意味で活動を続けたり広げたりすればするほどNPO職員の疲労度が増し、こういった制度では持続的に活動を続けていくことが困難である。	高知県
75	?	○	○	効果的な対策がなく、すべて試験的な取組になっており、漁業者の意識にも差がある。	鹿児島県
76	?	○	?	No.75 同様	鹿児島県
77	?	○	?	No.75 同様	鹿児島県
78	?	○	?	No.75 同様	鹿児島県
79	?	○	?	No.75 同様	鹿児島県
80	○	○	?	活動場所が離れているために、資金面の苦労がある。	沖縄県【沖縄島】

参考資料1

81	○	?	?	ヒメシロレイシガイダマシの駆除量が減少傾向にあるため、サンゴ群集の保全に寄与できていると考えている。	宮崎県
82	?	?	?	海域公園におけるサンゴの分布調査であり、調査結果を元に今後効果を挙げる方策を検討する必要があるため。	宮崎県
83	-	-	-		
84	-	-	-		
85	○	○	○	ボランティアによる駆除活動であるが、実績を上げている。オニヒトデの数が減っている。	鹿児島県 【沖永良部島】
86	○	○	○	事業の実施により、オニヒトデの数が減っている。	鹿児島県
87	-	-	-		
88	○	○	○	奄振事業として、国・県の補助を受け、町の事業で行っている。オニヒトデ駆除、モニタリング調査を委託している。駆除数等を見ると効果は出ていると思われる。	鹿児島県
89	?	?	○	国の環境管理を担当している環境省の消極的な姿勢の改善を期待したい。以下のような事項が生じているためサンゴ礁等の保全も進んでいないという事実を認識し、事実を改善するよう法律や行動計画等を策定して欲しい。 1) 自然環境に対する効果は当協会の度重なる科学的な調査結果を元にする指摘にも関わらず、泡瀬干潟では工事が進行し、自然環境が劣化してしまい、環境保全はうまくいっていない。 2) 環境影響評価法の不備 3) 護岸工事や港湾工事等に伴う環境劣化	沖縄県【沖縄島】
90	-	-	-		
91	-	-	-		
92	-	-	-		
93	○	○	?	自然環境に対しては、少しずつではあるが改善されていっているように思う。社会的には新聞等に取り上げられ、人々にアピールできているから。運営面にはやはり資金等の理由で大変な面が多い。	沖縄県【石垣島】
94	○	○	○		沖縄県【慶良間諸島】
95	-	-	-		
96	-	-	-		
97	-	-	-		
98	-	-	-		
99	△	△	○	原因者(特に農業者)の認知度が低い。	沖縄県【沖縄島】
100	-	-	-		
101	-	-	-		
102	○	○	○	(自然環境に対する効果)毎年実施しているアンケート調査で環境保全に対する意識の向上が確認されている。(社会的な面)毎年定員を超えた参加希望がある。(運営面)今のところ地元企業による費用援助が継続して見込まれている。	和歌山県

参考資料 1

103	○	△	△	自然環境については、モニタリングの結果からサンゴの再生が進んでいる傾向が伺える。社会面については、活動が行政、特に環境省主体となっており、人材、運営ともに民間を主体とした自立的なものになっていない。それらを改善するために自立までの資金確保(雇用するためにも)が重要になってくる。資金さえあれば、地域活性化、運営面と何とかなると思う。	高知県
104	○	○	○	沖縄のプロジェクトでは、サンゴの白化のメカニズムに関する新たな学説が提唱された。また、継続的な実施により現地との懇親も図られており、運営自体も円滑であること。運営面でも三菱商事の拠出する資金が確保されており、活動が継続できていること。	沖縄県【沖縄島】
105	○	○	○	実行組織、資金背景、専門指導者、地元との連携、運動のニーズの把握、運動の継続性などがしっかりしているから。	沖縄県【慶良間諸島】
106	?	○	○	修学旅行生に対して当地の珊瑚礁がいかに関値有るのかを説明し運営面で当地ショップスタッフを使っている。	沖縄県【石垣島】
107	○	○	?	オニヒトデ、サンゴ食巻き貝を駆除していることにより、地区によっては生存する大型サンゴ群も順調に成長し、サンゴの状況は健全で、サンゴ食生物による被害もほとんど見られない。食害動物駆除については、今後も継続的に実施する必要がある	鹿児島県【奄美諸島】
108	?	?	?	始まったばかりなので何とも言えない。	沖縄県【石垣島】
109	?	?	○	現在調査中であるため。	パラオ、ミクロネシア、マーシャル
110	?	○	○	自然環境に対する効果:サンゴの被度が、調査年度によってバラツキがある為、判断が難しい。もう少し時間が必要と思われます。社会的な面、運営面:特に問題は無いため。	鹿児島県
111	?	○	○		沖縄県【西表島】
112	○	○	○	オニヒトデの駆除によりサンゴ保全活動の効果は上がっている。運営面については、補助事業を活用できている間はスムーズに事業を実施できているが、補助事業終了後の資金面が課題である。	高知県
113	-	-	-		
114	-	-	-	本年度より開始した事業であるため評価は困難。	山口県
115	?	?	?	概ねうまくいってるが、荒天時や人手不足などにより目標回数をこなせていない海域もあり、いかに必要な人員をそろえて十分な回数を行うかなどの課題があるため。	高知県
116	※	○	○	事業は平成22年より開始し、26年度までの5ヶ年事業として実施していることから、現段階での効果は見えていないが、継続することで効果が出ると考えている。また、サンゴや藻場の減少などの磯焼けに対する市民の感情は高まっており、この事業に対する社会的な理解度は高い。 ※H22年度が初年度である。	鹿児島県
117	?	?	?	本年度12月に学習会を開催したばかりであるため、効果の評価することは難しい。	長崎県

参考資料 1

118	○	○	○	事業にもよるが、島の外への活動の拡大、他団体とのつながり、団体の自立、PR 法等に課題がたくさんあることも事実。	沖縄県、東京都、茨城県、神奈川県
119	○	○	○	現地でニホンアワサンゴの保全活動を行っているが、そこが漁場となることもある。現在は地元漁師と意見を交え、漁場であっても互いに考慮し、保全活動が行えている。	山口県
120	-	-	-		
121	-	-	-		
122	-	-	-		
123	○	○	○	地元住民のサンゴ礁の重要性の認識も高まり、海岸の堆積物除去を行うことにより自然環境も良くなりつつある。	宮崎県
124	-	-	-		
125	?	○	○	プロジェクト開発後 2 年目であるため、効果発現のためにはもう少し時間が必要である。(本プロジェクトは4年間継続予定)	セネガル
126	○	○	○		パラオ
127	-	-	-		沖縄県【石垣島】
128	-	-	-		
129	-	-	-		
130	-	-	-		
131	-	-	-		
132	?	?	?	現在も継続中の活動であり、簡単に評価できない。運営面では人材、資金面ともに大変であることは確かである。寄付金の税金控除などの仕組みをもっとやり易く、充実させる必要がある。	沖縄県【石垣島】
133	-	-	-		
134	?	?	?	継続調査していないため。	未記入
135	○	○	○	気候変動、環境変化(古環境の復元)等の基礎資料の解析研究が行われるなかで、サンゴ礁の保全の大切さを合わせ、地元(現地)での作業活動に当たっております。人材・資金面では、資金(作業費)が十分とは言えず、作業人員不足もあります。	日本全国、ミクロネシア、東南アジア、アフリカ
136	?	?	?	①放流事業:水産生物の放流効果が十分に把握しきれていないため。②オニヒトデ:駆除活動に時期的なムラが大きい。	沖縄県【宮古島】
137	○	○	○	上記の回答はいずれも「どちらかといえば」という前置きが必要ですが、サンゴ礁保全の基礎となる啓発活動は一朝一夕で明瞭な効果は把握できないものの、8年にわたって活動が継続できていることは、一定の成果があると理解しています。	沖縄県【宮古島】
138	?	△	△	自然に対する効果:どちらもいえない⇒よく保全出来ているところもあるが、食害により壊滅したサンゴ群集もある。社会的な面:あまりうまくいっていない⇒地元では、一部の人間にしか関わりもなく、地域全体でみると、まだまだ認知・理解が低い。中には、オニヒトデの駆除に否定的な漁業者もいるため、駆除出来ないエリアがある。運営面:あまりうまくいっていない⇒とにかく人材不足で、人材を育成するには時間がかかり過ぎるためもつとほかの団体やエリアとも連携が必要だと感じている。	高知県

参考資料 1

139	※	※	※	フォーラム自体は現在も場所を変えて続いているようですが(2010年は秋田白神)、当地域での効果などは判断できません。	静岡県
140	※	○	○	当時の業務に直接関わっていないため、判断できない部分もあるが、地元の協力を得ながら行われたもので、下田市にある筑波大学下田臨海実験センターの協力を得て調査が行われているため。	静岡県
141	○	○	○		千葉県・静岡県
142	○	○	○	駆除事業の実施によりサンゴの食害の被害状況は最小限に抑えられているが、今後も引き続き駆除を実施する必要がある。	宮崎県
143	○	○	○		宮崎県
144					
145	※	○	○	モニタリングが主であるため、環境に対する効果は期待していない。	東京都【小笠原諸島】
146	?	○	?	植生回復について、ノヤギの排除や希少植物の回復はうまくいっているが、裸地での土壌流出防止は試行しながら対策を継続実施中であり、どちらともいえない。ノヤギの排除や東京都版エコツーリズムは、一定の理解を得ている。運営面では予算の限度等もあり、どちらともいえないレベルである。	東京都【小笠原諸島】
147	-	-	-		
148	○	?	?	現在は重点駆除ポイントを設け駆除するのが限度と思われる。今後の大量発生時には速やかに対処するため各関係機関とのネットワーク作りが重要になるとと思われる。	鹿児島県【奄美諸島】
149	?	?	?		鹿児島県【奄美諸島】
150	○	?	?	活動・調査を継続させる事で相対的なデータ収集ができ、今後の活動の幅を広げる事にも繋がる。	鹿児島県【奄美諸島】
151	※	※	※	近年、サンゴ関連の事業を実施しておらず、当時携わったスタッフも不在のため把握できない。	未記入
152	?	?	△	サンゴの保全については、活動を行うことである程度減少に歯止めをかけられているが、海域すべてのサンゴを保全するには、人材、資金が不足している。また、漁業者や、地元に対する普及啓発活動が、十分ではなく、一部の漁業者にしか理解が得られていない。	高知県
153	?	?	○	環境教育を受けた人達が、その時受けた教育をその後どう活用しているかまでは把握していないので、判断が難しいので。運営面に関しては、行政の事業であったため。	沖縄県【沖縄島】
154	?	○	△	サンゴの移植活動を行っているが、移植後のモニタリングが不十分なため、結果についての評価ができていない。	徳島県

参考資料 1

155	?	?	△	<p>生息環境研究事業についてはある程度の成果が出ておりうまくいっていると考えていますが、海水流動機能修復事業についてはまだ十分な成果が出ておらず成功しているとはいえません。どちらの事業もこれまで研究されてきている事象ではなく、全て1からの研究が必要なため、時間がかかるのではないかと考えております。財政的な理由から、予算の削減を求められており、今後の事業展開が難しいところです。</p>	徳島県
156	○	○	○	<p>サンゴの自然回帰後の成長が確認出来き、尚且つ地元の方もサンゴ保護柵設置に協力的である。</p>	神奈川県
157	○	○	※	<p>現在、当該地域に、空港増設の埋立計画がある。現時点での観察会は上手くいっているが、今後開催できなくなる。行政的には、空港増設事業は推進すべき事業となっている。</p>	沖縄県【沖縄島】
158	○ & △	○	※	<p>任意団体としてすべきことはきちんとしているので成功していると思う。世間一般で認識されているよう有給職員を置くことや法人化といったことは最初から視野に入れていない。</p> <p>国の環境管理を担当している環境省の姿勢が一番困る原因となっており改善を期待したいところである。以下のような事項が生じているためサンゴ礁等の保全も進んでいないという事実を認識し、事実を改善するよう法律や行動計画等を策定して欲しい。また環境アセスメントの各段階で提出されている住民意見やサンゴ礁保全行動計画等に対し出されているコメントなどが十分に反映されていないことに対し大変不満を持ち改善を願う。1) 泡瀬干潟では当会が活動を始めてから自然環境は明らかに劣化している。しかしながらそれは活動の結果が招いたということではなく沖縄市や国が、当会及び連携団体からの意見や調査結果にまったく耳を貸さないという状態が続いていることに起因する。</p> <p>2) 当会のモニタリングポイントの1つである大度海岸では餌付けや人間によるサンゴ等の生物の踏み付け、観賞魚の捕獲、赤土の流入に起因すると思われる水質悪化などが問題である。これらの現象は大度海岸だけでなく沖縄の沿岸全体の問題であると思う。</p> <p>3) またアセス法の対象とならない規模の小さな開発工事(護岸工事等)も海岸の環境を改変し、陸域から浅海域までの連続性を壊すという愛区影響がある。</p> <p>4) 当会がもつとも力を入れている大浦湾・辺野古と泡瀬干潟に関しては環境影響評価法の不備が最大の原因であると考えられる。</p>	沖縄県【沖縄島】
159	○	○	○		千葉県
160	-	-	-		
161	-	-	-		
162	-	-	-		
163	-	-	-		
164	○	○	△	<p>運営にあたる人材の不足と人件費の問題が課題。</p>	東京都【小笠原諸島】
165	?	○	※	<p>地域合意とルールとを仕組みとして機能させることが必要。 ※これらからです。</p>	千葉県

参考資料 1

166	-	-	-		
167	-	-	-		
168	-	-	-		
169	○	○	○	駆除活動によりサンゴの食害は抑えられている。しかし補助金も減額し続けているので、今後の資金繰りを考えていく必要がある。	和歌山県
170	○	○	○	海域環境の経年変化を観察・記録をしており、当社事業による海域への影響がないことを把握している。また、定期的に関係自治体へ報告しており、関係自治体からも同様の理解が得られているため。	沖縄県【沖縄島】
171	○	○	○	サンゴ・海藻草類移植技術検討について、海域保全・再生に関する基礎資料の一助とすることを目的に知見の集積を行ってきており、一定の効果を確認している。そのうち、サンゴについては、現在も継続しており、移植サンゴの育成状況の定期的なモニタリング結果によると、現段階では育成状況等も概ね順調である。当該検討結果については、海の緑化活動として、当社の環境行動レポートにて公表しており、取り組みに関する地元との相互理解の促進に繋がっていると考えている。	沖縄県【沖縄島】
172	○	○	○	サンゴの植え付けは生物多様性の一助として自然環境に対する効果があると考えられる。今後の課題として、植え付けたサンゴの観察を定期的に行い、専門家による評価やアドバイスを受け、今後の活動の更なる展開を進める必要がある。	沖縄県【沖縄島】
173	-	-	-		
174	○	○	○	調査は、スケジュールどおりに行われている。オニヒトデ駆除は、地元関係者と連携して実施。予算も国庫補助金を活用している。	沖縄県
175	○	○	○	自然環境に対する効果は、様々な改良を重ねて徐々にサンゴの生存率も上がってきている。社会的な面は、地元の企業・漁協・リゾートが一体となって取り組んでいるため、成功している。12の参加企業の会費を元に運営しているため、資金面の問題は無い。	沖縄県【沖縄島】
176	-	-	-		
177	-	-	-		
178	○	○	○	当事業では、身近な砂浜に愛着や誇りを持っていただくため、それぞれの浜の清掃をその浜を有する集落の自治組織や子ども会に清掃していただいております。また、事業費の一部を少額ではあるが謝礼として当該団体に支払っており、自治活動の運営の一助になっている。	鹿児島県
179	-	-	-		
180	△	○	△	海域公園以外にもサンゴが棲息しているため、オニヒトデの数は増加傾向にある。天草市も駆除事業を実施したことは地元の理解が促進されていると考える。しかし予算的に制約もあり駆除の徹底は難しいと考えられる。	熊本県
181	※	※	※	平成22年度開始の事業ため、今後検証を行います。 ※検証未実施	長崎県
182	-	-	-		
183	○	○	○	現在のところ情報共有を図る場としてうまく機能しているため、特段問題点等はない。	高知県
184	?	○	?	Q11の環境に対しては、展示槽内での増殖に留まっており、野生復帰等までは行っていないことから、社会に対しては啓もう活動として広く周知させていることから、上	大分県

参考資料 1

				記の評価とした。	
185	○	○	○	食害動物(シロレイシガイダマシ類)の被害状況調査、駆除の継続的な実施により被害が沈静化した。	和歌山県
186	○	?	○	串本海中公園地区(1号地~4号地)資質調査、食害動物(オニヒトデ)の分布状況把握により、今後の保全策に資する情報がまとめられた。	和歌山県
187	○	?	○	串本町沿岸海域の資質調査、食害動物(オニヒトデ)の分布状況把握により、今後の保全策に資する情報がまとめられた。	和歌山県
188	○	○	○	①オオナガレハナサンゴの分布状況把握、②食害動物(オニヒトデ)分布状況調査、③平成15年度・16年度の串本海中公園資質調査に関する地元説明会の開催により、今後の保全策に資する情報整理と地元理解促進につながった。	和歌山県
189	○	○	○	食害動物(オニヒトデ、シロレイシガイダマシ類)の被害状況調査、駆除の継続的な実施により爆発的な個体数増加による被害は抑えられている点で一定の成果があるといえる。新規加入個体の減少、サンゴ食害量の減少を目標に今後も継続が必要。	和歌山県
190	○	?	○	吉野熊野国立公園及び周辺沿岸海域の資質調査(12箇所の詳細調査)により、今後の保全策に資する情報がまとめられた。	三重県
191	○	?	○	海中の生き物をシュノーケルで観察する行事で毎年応募者多数。実施後のアンケートでは好評の声が多く自然環境保全意識の醸成に繋がっていると考えられる。国・県・町・民間が役割分担・協力実施しており運営面でも成功しているといえる。日常ではなかなか見ることがない海の美しい環境を低価格の参加費、専門知識のある講師による解説、安全面に不安を感じさせない適切なスタッフ数のもとで体験できること、観察対象の自然が豊かで拠点施設が整っていることなどが好評の理由と考えられる。社会的な面については、参加者が別途個人的に来訪するきっかけづくりになっていると思われるが地域活性化にどの程度貢献しているか未確認。地元住民、特に子供達に地元の海の大切さを知ってもらうことや地域活性化のための積極的な取組は今後の課題。	和歌山県
192	-	-	-		
193	-	-	-		
194	-	-	-		
195	○	○	○	港湾内のサンゴの保全、再生に関する知見が蓄積されている。開発行為で消失するサンゴの一部を緊急避難措置として移植した。	沖縄県【沖縄島】
196	-	-	-		
197	※	○	?	※時期尚早	パラオ
198	?	?	?	少数の人間、少ない資金では限界がある。	沖縄県【慶良間諸島】
199	○	○	○		沖縄県【沖縄島】
200	○	○	?	河川・海岸の愛護の一環として取り組み理解いただいておりますが、燃料費や資機材の費用が少なすぎる。	沖縄県【沖縄島】
201	-	-	-		

参考資料 1

202	○	○	○	成果についての明確な評価方法があまり確立されていない。また、予算的、時間的、組織的に多く余裕があまりないため、評価に対して力を割けないのが現状。	沖縄県【沖縄島】
203	-	-	-		
204	?	?	?	今後地元を中心とした再生活動がより自発的に行われるようになれば成功といえる。	徳島県
205	-	-	-		
206	?	?	?	場所によって、環境が異なり、効果がある場所・無い場所あり。予算は年々縮減しており、経費のかかる規模の大きな実証試験等が実施できない。	鹿児島県
207	?	?	?	場所によって、環境が異なり、効果がある場所・無い場所あり。特にリーフ内は通常の海域とは環境が大きく異なることから、課題も多い。	鹿児島県
208	※	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境に対する効果:本調査は、移植サンゴの生存状況を把握することを目的に実施しており、良好に生息していることが確認されているが、「自然環境に対する効果」の調査・検証を実施していないことから、判断することはできない。 ・社会的な面:サンゴ移植やその後のモニタリング調査(本調査)結果は、少なからずサンゴ移植技術の確立に寄与し、今後の環境保全に繋がるものであると考えられるため、「うまくいっている(成功している)」と考えている。※参考・・・日本サンゴ礁学会第12回大会(2009年11月開催)にて、当該活動に参加したNPOより、移植やその後のモニタリング調査結果を発表。 ・運営面:一定の根拠に基づき費用の積算や発注先を決定しており、「うまくいっている(成功している)」と考えている。 ※判断できない	沖縄県【沖縄島】
209	※	○	?	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境に対する効果:移植を実施したことで新たな生態系が創出されることなどが考えられるが、「自然環境に対する効果」の調査・検証を実施していないことから判断することはできない。 ・社会的な面:移植を実施したことで、今後、新たな漁場環境の造成及び環境学習の場として有効活用できることなどが考えられ、また、このような環境保全への取り組みを行政自ら積極的に行うことで地域の子供たちへの教育に寄与できるものであり、社会的な面において、「うまくいっている(成功している)」と考えている。 ・運営面:今回の移植に限っては、参加者や必要機材等、NPOや関係企業よりご協力いただき実施することができたことから、「うまくいっている(成功している)」と考えているが、今後はNPOや企業等に頼るのではなく、助成制度を設ける等、行政側が支援し実施することが望ましいと考えているため、どちらともいえない。 ※判断できない	沖縄県【沖縄島】
210	-	-	-		
211	○	○	○	地域の人々が、自然環境を自らの手で保護していくという意識があり、行政もサポートしている。	沖縄県【西表島】
212	○	○	○	現在、主に活動されておられる方が、リーダーシップがあり、引っ張ってくれる。これからもアワサンゴだけでなく、このような活動に頑張ってもらいたい。	山口県